

 **PDF**
Complete

*Your complimentary
use period has ended.
Thank you for using
PDF Complete.*

[Click Here to upgrade to
Unlimited Pages and Expanded Features](#)



〒411-0831
静岡県三島市東本町1-15-1
山川ビル2F
Tel, Fax (055)971-9823
E-mail: info@akanegarou.com
<http://www.akanegarou.com/>

茜画廊の紹介

2013年7月

茜画廊概要



《歴史》 1989年創業(今年24年目)

《所在地》 静岡県三島市

《画廊の特徴》

- 企画専門画廊。現在「豊原国周展」開催中。
- にせもの(複製品・贋作)が多く出回る中、
茜画廊は本物だけを扱います。
- 茜画廊は常に調査・研究を怠りません。
(国際浮世絵学会会員)

《所蔵品》

- 質: 有名作家の物は非常に高価であり、また
にせものが多い。茜画廊ではそれを見極め
本物だけを扱います。
あえて日本でまだ知名度が高くないかし
一流の優良作品を集めることによって、
安価且つ本物の所蔵作品群を形成して
おります。
- 量: 約2000点の在庫。版画が中心。

ここをクリックするとすべての作品が検索できます

024737

1. 世界的美術館が所蔵するレベルの高い多くの作品群。
2. 業界トップクラスの在庫(日本及び世界の版画)。
3. 綿密な調査にもとづく国際的に通用するプライス。

有約3000点程度の絵画や版画の作品がご覧いただけるよう買取作品を追加・入力中です。
作品をお探しの方、購入ご希望の方は下記の手続きをお願い下さい。

作品販売&検索

- 西国画は本物だけを扱う画廊(ギャラリー)です
- 豊原国周展**
2010年2月24日(木)～4月10日(日)
- 《過去の企画展》
- 《今後の企画展予定》
- 《所蔵作品「フランケン」& 豊原国周展》
- 《作品販売 & 検索》
- 《EYES》
- メールはこちらへ

画廊所
船倉橋二・多々良雄大
411-0831 三島市東本町1-15-1山川ビル2F
Tel&Fax: 055-971-9882
営業時間: 10:00～18:00
定休日: 毎水曜日

<http://www.akaragallery.com>
E-mail: info@akaragallery.com

◆電車: 伊豆箱根鉄道沼津駅から徒歩2分
◆車: 宮倉ガレージNo1 & 3
本館の所には事前に御連絡下さい。

茜画廊ホームページ

美術館との主な取引実績

【展示会への貸出】

- 2003年 ニューオータニ美術館「ジャポニズム版画展」(協力茜画廊)に
ブラングインと漆原由次郎の版画を数10点貸出。
- 2005年 東京都庭園美術館「アンソール展」に彼が模写をしたという
月岡耕漁の能を描いた版画を貸出。
- 2010年 国立西洋美術館50周年記念事業「フランク・ブラングイン展」に
ブラングインの「詩画集ブルージュ」「スケッチ2点」を貸出。

【販売】

ニューオータニ美術館、千葉市美術館、平野美術館
オーストラリア国立図書館、パウル・クレー・センター など

所蔵作品紹介（国内編）

（約2300点所蔵）

ジャンル	主な作家
1)江戸幕末錦絵 2)明治初期伝統木版画 3)近代木版画(含 新版画)	歌川国貞、歌川国芳、菊川英山、歌川広重 豊原国周、月岡芳年、小林清親、橋本周延 渡辺省亭、水野年方、小原古邨、山本昇雲、尾形月耕 高橋松亭(弘明)、土屋光逸、野村芳光、竹内棲鳳(栖鳳) 上村松園、安井曾太郎、北野恒富、梶田半古、川瀬巴水 吉田博、吉川観方、月岡耕漁
4)創作版画	川西英、藤森静雄、関野準一郎、奥山儀八郎、漆原由次郎 斉藤清、山口源、川上澄夫、逸見亨、木和村創爾郎、北岡文雄
5)口絵	水野年方、渡辺省亭、鰭崎英朋、富岡永洗、梶田半古、竹内桂舟
6)現代版画	深澤幸雄、坂東壮一、柄澤齊、相笠昌義、胡子修司、若月公平 高垣秀光、中込洋子、多賀新、黒崎彰、清野泰行、長谷川彰一 小作青史、坂爪厚生、中林忠良、荒木哲夫、小林敬生、吹田文明 森義利、星襄一、吉田穂高、藤浪理恵子、呉一騏
7)肉筆画	竹内棲鳳(栖鳳)、渡辺省亭、梶田半古、小原古邨、斉藤義重
8)版本・その他	堂本尚郎、上條陽子、呉一騏 美術世界、国華、版芸術、詩と版画 他

版画を中心に広いジャンルの作品を蒐集しております。
 以降に特に重点的に蒐集している作品群を紹介します。

歌川国貞（三代豊国）（100点以上所蔵）

“江戸の浮世絵で最も多く残っている本物の代表格が歌川国貞である”

江戸物には本物の江戸物（初摺り）と幕末・明治以降の後刷りと人気絵柄の復刻版とが混在している。本物はその江戸当時に持ち帰ったシーボルトコレクション（ライデン国立民族学博物館所蔵品）を見るのが一番適当であろう。そこで最も多く蒐集されているのは歌麿でも北斎でも写楽でもなく国貞である。シーボルト来日時に国貞は現役で活躍していたので本物が多く手に入った。しかしそれ以前の絵師の物は少なかった。

また静嘉堂至宝（平成18年出版）に選ばれている浮世絵（錦絵）は唯一国貞のみである。

本物で良い物は数少ないだけに、今後ますます国貞が注目されてくるだろう。

注）五渡亭国貞の本物は状態が良くないものでも数100万円する。（たとえばニューヨーククリスティーズ2008年に国貞「大当狂言ノ内与次郎」（状態不良）が750万円で落札）かと思えば後刷りで摺りが劣る物は1万円程度で入手できる。プロ泣かせの錦絵である。復刻版は少なく五渡亭の頃の物に数点存在するだけです。

《五渡亭国貞時代》



〔吉原時計〕亥ノ刻
文政中期 木版画 37.4×25.6cm
ライデン国立民族学博物館所蔵



〔江戸自慢〕開帳の朝参
文政期 木版画 39×26cm
ライデン国立民族学博物館所蔵

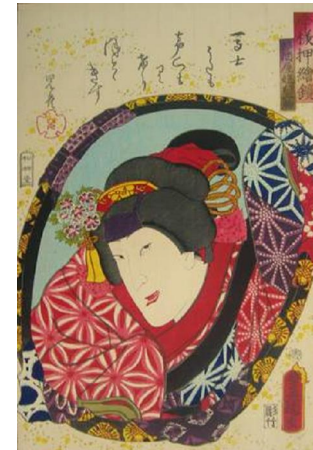


〔花街問答〕雨あられにも
文政期 木版画 36.2×25cm
ライデン国立民族学博物館所蔵



〔東海道五十三次の内〕四日市
嘉永5年 木版画 35×25cm
国立ギメ美術館所蔵
ヴィクトリア・アルバート博物館所蔵

《幕末 三代豊国時代》 弘化元年以降



〔今様押絵鏡〕杉酒屋娘お三輪
安政6年 木版画 38×25.5cm
大英博物館所蔵



〔四季之内〕秋 柳久
文久2年 木版画 34.2×23.2cm
オランダ国立アムステルダム・ゴッホ美術館所蔵

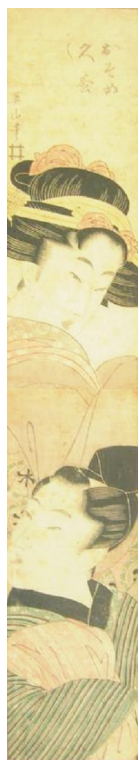
その他 江戸の浮世絵

“江戸の浮世絵は本物か幕末・明治の復刻版かとを見極めなければならない”

江戸期は幕府の倭約政策のため贅沢な版画は製作できませんでした。そば一杯の値段で摺りは5～6回、紙は再生紙。板は摺り終わるとすぐに削られ次の版に使われました。江戸の本物は非常に質素でありました。江戸物で豪華できれいな物の多くは復刻版です。特に歌麿・北斎・写楽・広重などは没後の幕末・明治期に再販された復刻版(新たに絵が描き起こされた新版を含む)が多くを占めております。

さて幕末以降の版画には後刷りが多く存在します。右図の広重の両国花火(安政5年)には数多くの版が存在します。いったいどれが初摺りなのでしょう？我々はライデン国立民族学博物館所蔵の物がそうであると判断しています。なぜなら出版された安政5年の翌年安政6年にシーボルトが日本に再来日し、その時に蒐集した物だからです。茜所蔵品はそのライデンと同じ摺りの物です。

日本は欧米に比べ錦絵の研究が遅れています。しかし茜画廊は我々なりに本物かどうか調査し判断し蒐集しています。しかし本来は科学的な分析によって明確にされなければなりません。そして本物と復刻物がきちんと区別される時代が来ることを期待します。



菊川英山 おそめ・久松
文化10年～14年 木版画
61×9.9cm (縦2枚綴 柱絵)



歌川国芳
〔通俗水滸伝豪傑八人一個〕
神機軍師朱武
天保元年 37.6×25.2cm



勝川春扇 美人絵
天保期 木版画 34.5×23cm



渓斎英泉
〔浮世四十八癖〕娘の癖
天保期 木版画 37×25.2cm



歌川広重
〔江戸百景〕両国花火
安政5年 木版 34×22.2cm
魚屋栄吉版 (初摺)
ライデン国立民族学博物館所蔵
大英博物館等所蔵

幕末～明治 豊原国周 (100点以上所蔵)

“外国人の需要が急増した幕末・明治の木版画は最高の仕事になされた！”

幕末になって幕府は力を失い彼らの儉約政策から開放され、明治政府は国力の増強、外貨の獲得のため美術品・工芸品の輸出を後押し、環境は急変。上質の絵具、摺紙を使用し技術の粋をつぎ込んだ木版画(浮世絵)が誕生した。外国人らはそれらをこぞって買い求めた。その頃に活躍していた国周の錦絵は江戸物の復刻版ではない本物の錦絵である。今では世界の一流美術館が所蔵している。

豊原国周

彼は小林清親や月岡芳年と共に明治浮世絵界の三傑に数えられた。清親や芳年が明治期の画人として近代的な写実表現や西洋画の描写を学習応用したのに比べ、あくまで伝統的な浮世絵の表現に固執。そしてその形式化された画風によって、浮世絵の有する江戸情緒を最後まで伝え得た最後の画人であった。大首絵の役者絵は特に西洋で人気を博し「明治の写楽」とも評された。



櫻門五山桐 石川五右衛門 (九代目市川團十郎)
明治29年 木版画 37×73cm (3枚続)



尾上菊五郎 加古川清十郎
明治2年 木版画 34.6×23.1cm
大英博物館所蔵



見上屋夜〔廿四時之内〕午前三時
明治23年 木版画 36×23.6cm
町田市立国際版画美術館所蔵
アーヘンバックコレクション所蔵



「開化人情鏡」新造衆
明治11年 木版画 35×24cm
スミニアン・サッカー美術館所蔵



〔梅幸百種之内〕大塚信乃
明治26年 木版画 34.7×23.1cm
フランス国立ギメ美術館所蔵
町田市立国際版画美術館所蔵

水野年方 (約80点所蔵)

“明治以降に木版画を手がけた画家は外国人には持てはやされた。が
国内では本画が重宝がられ徐々に影薄い存在になっていった”

その代表格が 水野年方、渡辺省亭、小原古邨 …
再評価されるべき作家達である。

水野年方

1866年～1908年の画家。月岡芳年の一番弟子。自分で洋画の勉強をし又、渡辺省亭、三島蕉窓について花鳥画も学んだ。鏑木清方の師。

新しい日本画を目指し日本青年絵画協会が結成された時には若手画家の一人として活躍、発展改称した日本絵画協会にも参加した。日本美術院が設立された時には特別賛助会員として加わるなど、明治中期の絵画界でも大いに活躍した。

彼独特の柔らかく上品な画風は万人をとりこにし、明治19年より文芸倶楽部や単行本の口絵を描き、その世界でも第一人者であった。年方門下から鏑木清方、池田輝方、池田蕉園らが輩出された。



水野年方 三十六佳撰 夕陽
明治26年 木版
32.5×21.7cm
東京国立博物館所蔵

注) 木版画集「三井好み」(12枚セット)は最高の彫・摺の仕事がなされ、当時2円50銭/1枚という破格の値段で売られた最高級品である。ヨーロッパに輸出され人気を博した。



水野年方 三井好 都のにしき(愛犬)
明治23年 木版 21×30.0cm
スミソニアン・サッカー美術館所蔵
三井記念美術館所蔵



水野年方 恋慕ながし
明治33年 木版
22×30.0cm
口絵 (春陽堂)



水野年方 提督丁汝昌於官宅自殺図
明治28年 木版 35.4×70.5cm
フランス国立ギメ美術館所蔵
国立国会図書館所蔵

渡辺省亭 (約30点所蔵)



“明治最高の絵師！”

嘉永5年(1852年)江戸生まれ。菊池容斎の門下で独自の道を模索し画風を形成していった。明治11年パリ万博で受賞。同年デモンストレータとして渡仏、3年間滞在した。

帰国後花鳥画を多く描き春陽堂『美術世界』では編集者として当代一流の彫師五島徳次郎、摺師吉田市松を要して、美術品として格調高い木版画集を作り上げた。その大胆、豪快な常識の枠を超えた木版画はヨーロッパに輸出され、西洋の多くの画家がその構図を学んだ。また起立工商社の輸出用陶器、七宝など工芸品の下絵を多く描いた。

代表作に「四季花鳥図」(明治24年)ポーランド・クラクフ国立美術館所蔵。「雪中群鶏」東京国立博物館所蔵がある。絵画、木版画共国外の美術館、コレクターが所蔵し日本に残存するものは少ない。

注) 彼の日本画には多くの贋作が存在するので要注意



松鶴
明治30年代 日本画
(絹本、彩色 軸装)



渡辺省亭 花鳥画譜(初版)
大正5年 木版 版本3冊セット
20.8×31.6cm(本サイズ)



柳に駒鳥
大正5年 木版 20.8×31.6cm
スミニアン・サッラー美術館所蔵



三牌始めて応ず
明治25年 木版 22×26.4cm(2枚続)
春陽堂 美術世界より

以降 小原古邨 (祥邨、豊邨)

“年方、省亭と並び、明治最高の絵師のひとり”

(40点以上所蔵)

明治10年金沢市生まれ。鈴木華邨に師事し日本画を習う。明治32年より日本絵画協会主催の展覧会「共進会」で上村松園、小林古径、竹内栖鳳などと共に出品し、第7回展で「寒月」三等褒状、第9回展で「花鳥獸(四種)」が2等褒状、第10回展で「からすうり」が2等褒状、第11回展で「嵐」が2等褒状、第12回展で「花鳥百種」が2等褒状と華々しい活躍をする。

その後フェノロサに認められ彼の助言により花鳥木版画の版下(下絵)を描く。古邨と彫師、摺師の卓越した職人技が生み出す見事な木版画は明治36年頃よりヨーロッパに輸出、売り出され高い評価と人気を博す。クリムトが蒐集し、ラーションが居間に飾った。

近年でも評価は極めて高く、アムステルダム国立美術館にて日本人として初めての展覧会「小原古邨展」が開催(2001年3/31～7/1)、同館所蔵260点のうち日本画・木版画180点が展覧された。スミソニアン・サックラー美術館が200点余り、同フリーア美術館、ボストン美術館が日本画数点、千葉市美術館45点、東京国立近代美術館34点(祥邨)所蔵している。



丹頂鶴
明治40年代 木版画 34.8×18.6cm
アムステルダム国立美術館所蔵
スミソニアン・サックラー美術館所蔵



鴛鴦
明治40年頃 木版画 34.5×18.6cm
アムステルダム国立美術館所蔵
スミソニアン・サックラー美術館所蔵



子犬
明治40年頃 木版画 34.6×18.7cm
アムステルダム国立美術館所蔵
スミソニアン・サックラー美術館所蔵



椋に懸巢
明治38年 木版画 49.8×21cm
アムステルダム国立美術館所蔵
スミソニアン・サックラー美術館所蔵



群燕
明治34年 日本画
(絹本、彩色 軸装)

よる木版画



“大家達によるオリジナル木版画はずっと無視・軽視されてきた”

竹内棲鳳(栖鳳)、上村松園、安井曾太郎、鐫木清方
北野恒富、島成園 など

原田平作先生(愛媛県美術館名誉会長)がご指摘されている(1986年「京都の近代木版」論評)ように著名な日本画家(大家)の手によるオリジナル木版画が存在する。しかしそれらは長年無視・軽視され続けてきた。見直されなければならないジャンルのひとつである。逆に大家と言われる作家の本画から製作した複製物が本物と区別もされずに多量にしかも高価な値で市場に氾濫していることは非常に残念なことである。



安井曾太郎 画家とモデル
昭和9年 木版 39.3×27.5cm
摺、平塚運一
東京国立近代美術館所蔵

(栖鳳)
竹内棲鳳(約20点所蔵)



〔棲鳳十二富士〕樹間の鴿聲
明治27年 木版 17.5×29.1cm

上村松園(6点所蔵)



上村松園 大近松全集より
「雪女五枚羽子板」の雪女
大正11年 木版 38×26cm
千葉市美術館所蔵



北野恒富 大近松全集より
「冥途の飛脚」の梅川
大正11年 木版 38.7×25.2cm
千葉市美術館所蔵



鐫木清方 築地明石町
昭和3年 木版 59×34.8cm
スミニアン・サッラー美術館所蔵
東京国立博物館所蔵

近代(明治・大正)の木版画

“最高の木版画の数々！” ムラーコレクションとの共通性

この時代の作品を蒐集した最大のコレクションがムラーコレクションである。ロバート・ムラー氏は明治以降の日本版画を約4000点(米)スミニアン協会のアーサー・サックラー美術館に寄贈した。作品の補足にスミニアン・サックラー美術館所蔵と表記した物はすべて旧ムラーコレクションの物である。茜画廊が蒐集したこの時代の良い物はほとんどがそのムラーコレクションと重なってしまう。お互いのセンス(審美眼)が一致して結果と言える。

月岡耕漁 (約60点所蔵)



〔能楽百番〕舟弁慶
大正10年～15年 木版
37.5 × 25.5cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵

橋本周延 (約40点所蔵)



「時代かがみ」宝永の頃
明治30年 木版
33.5 × 21.6cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵

吉川観方 (5点所蔵)



初代中村雁治郎の紙屋治兵衛
大正12年 木版 29.8 × 27.0cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵
千葉市美術館所蔵

漆原由次郎(約50点所蔵)



芍薬
大正期 木版 28.8 × 22.7cm

山本昇雲(約40点所蔵)



河畔の月
明治30年代 木版画 9.2 × 14.2cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵
高知県立美術館所蔵

高橋松亭(弘明)(15点所蔵)



和泉橋の雨
大正12年 木版 16.4 × 37.4cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵

吉田博(約20点所蔵)



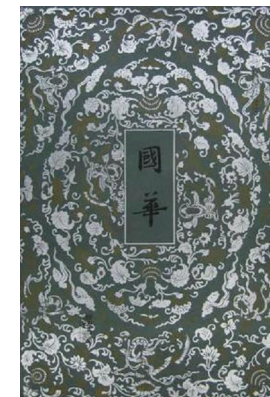
「東京十題」隅田川 霧
大正15年 木版 24.8 × 37.3cm
スミニアン・サックラー美術館所蔵

国華

(創刊号をはじめ、明治～大正にかけて出版された国華200冊余りを所蔵)

“最高の木版画技術の粋”

木版画技術の究極が美術雑誌「国華」の複製木版画に凝縮されている。
国華は東洋・日本美術の研究、紹介(特に海外向け)を目的とした製作された。
その木版画は作品によっては摺り数が100回以上とも言われ、木版画としての最高級品であり、資料としてはもちろん美術品としても尊重されるべきである。



国華表紙



無款
浮世絵古屏風「本多平八郎姿絵屏風」
重要文化財
当時:尾張 徳川義親蔵、現徳川美術館蔵



国華269号 (大正元年出版)
岩佐勝以筆「堀江物語畫卷」



国華146号 (明治35年出版)
伝小栗宗湛筆「青瓜図」
当時:東京 近衛篤磨蔵



国華146号 (明治35年出版)
狩野元信筆「夢想天神図」
当時:東京 馬越恭平蔵



国華408号 (大正11年出版)



依屋宗達筆
「源氏物語図屏風之一部」
当時:岩崎小彌太郎蔵、現静嘉堂蔵

和から現代へ（木版画）

日本の浮世絵の伝統は現代版画まで脈々と伝承されてきている！
茜画廊では単なるインテリアでなく美術品として価値ある作品を蒐集しています“

創作版画



中川伊作 双鱼図
1937年頃 木版 20×31cm
東京国立近代美術館所蔵

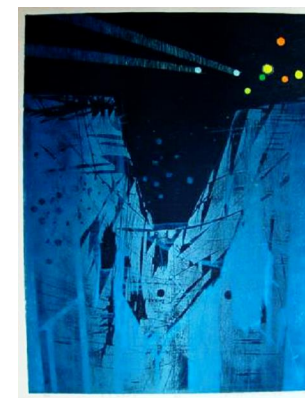


藤森静雄
〔路旁の草〕 ふたりしずか
1935年 木版 15.1×12cm



奥村儀八郎(9点所蔵)

奥山儀八郎 函根芦ノ湖之新緑
1948年 木版 20.8×34.0cm
東京国立近代美術館所蔵



吹田文明 街
1970年 木版 ed.50 58×45cm
東京国立近代美術館所蔵

伝統木版

野村芳光(約10点所蔵)

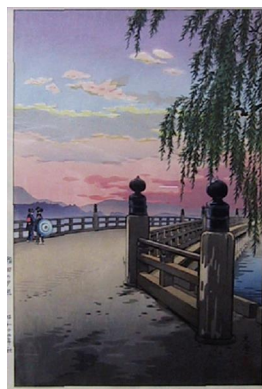


野村芳光 京洛名所〔八坂の塔〕
1930年 木版 ed.200 21×34cm



笠松紫浪 本郷赤門の雪
1935年 木版 23.8×36.2cm
東京国立近代美術館所蔵

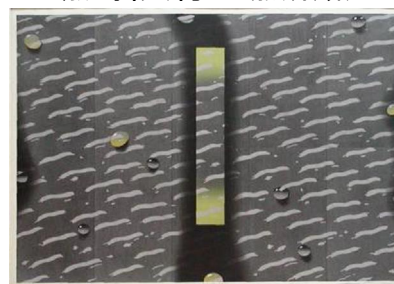
土屋光逸(6点所蔵)



土屋光逸 〔近江八景〕瀬田の夕照
1955年 木版 45.2×18.0cm
東京国立近代美術館所蔵

現代木版

黒崎彰(約20点所蔵)



黒崎彰 二つの時の間に I
1984年 木版 ed.50 56×82cm
町田市立国際版画美術館

柄澤齊(10数点所蔵)



柄澤齊 肖像X II 上田秋成
1983年 木口木版 ed.70 25×12.3cm
栃木県立美術館所蔵



小林敬生
蘇生の刻 夜明けにて
1990年 木口木版
ed.35 67×30cm

現代作家(銅版画)

坂爪厚生
(5点所蔵)



風景074 我ら兄弟たちⅢ
1974年 銅版 ed.20 50×63cm
第5回[版画グランプリ展]大賞受賞作
東京都美術館所蔵

荒木哲夫
(10数点所蔵)



夜想曲
1973年 銅版 ed.50 52.4×42.4cm
クラコウ国立美術館所蔵
東京国立近代美術館所蔵

深澤幸雄
(約70点所蔵)



掌の中の影
1976年 銅版 ed.30 74×49cm
ニューヨーク近代美術館所蔵
東京国立近代美術館所蔵
山梨県立美術館所蔵
千葉県立美術館所蔵

中込洋子(約20点所蔵)



都市の記憶89-VI
1989年 銅版 ed.20 60×79cm
日本版画協会第58回版画展(1990年)
山口源新人賞受賞作品

坂東壮一
(約50点所蔵)



ナルシス
1973年 銅版 ed.30
39×20cm

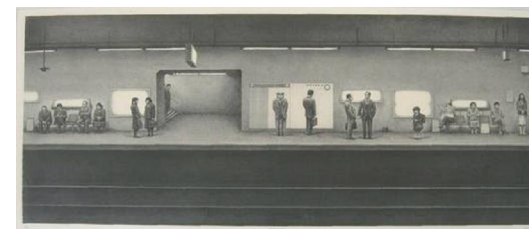
胡子修司(約30点所蔵)



初夏の頃
1987年 銅版 ed.50
18×24.9cm

現代銅版画

相笠昌義(約10点所蔵)



地下鉄を待つ人
1989年 銅版 ed.50 25×50.3cm

若月公平(10数点所蔵)



若月公平 Inner Books A
1993年 銅版 71×55cm
滋賀県立美術館シガ・アニュアル094展出品作

現代作家 吳一騏



茜画廊で唯一扱っている現代外国人作家『吳一騏』
注目すべき日本在住の中国人作家です。（約30点所蔵）

〔作家紹介〕

水墨作家。1956年中国上海に生まれ。張大壮に師事し伝統的な中国の水墨画に触れ、国画の名家、顧翼に師事し20年間水墨画を学ぶ。31歳で日本に国費留学。現代美術を研究するため齊藤義重氏に師事。以来日本に居付き水墨画に新境地を開く。作風は抽象でも具象でもなく、従来のジャンルにこの作家の絵は存在しない。独特の山と光の世界は単なるモノトーンの「山水画」を超えた深い精神表現に満ちており、観る人を何千年も、何万年も前の過去、はたまた何世紀も先の未来に誘う。ドイツ、アメリカ等の諸外国の芸術専門誌、新聞、テレビ等で紹介され、国立上海美術館等、個展を中心に発表を続けている。

〔ジグレイ版画〕

吳一騏が5年間かけて創作したコンピューターの中で生まれた新しい水墨画。本画からの複製ではない。数十枚もの水墨画の下絵、写真を入力しコンピューターの中で新しい展開を求め創造した。すべての仕事は100%作家の感性に依るもの。プリントも自分のアトリエで、改善した特製のプリンターで1枚、1枚丁寧に刷り上げた「オリジナルジグレイ版画」、
（出版：茜画廊）



吳一騏 「山水境界」シリーズ0326
2003年 ジグレイ版画 ed.30 25.5×98cm



吳一騏 「山水境界」シリーズ0225
2003年 ジグレイ版画 ed.30 36×60cm



吳一騏 山の演繹（弧居）
1998年 水墨画 27.6×68cm



吳一騏 山の演繹 No.5
1998年 水墨画 77.5×34cm

所蔵作品紹介（海外編）

（約500点所蔵）

ジャンル	主な作家
1) 19世紀版画	ドーミエ、ブラックモン、メリオン、ドラクロア、ティッソ シェレ、モロー、ロップス、シャイン
2) バルビゾン派版画	CH・ジャック、F・ジャック、ドービニー、コロー、ルソー ドラートル、デュプレ
3) 20世紀版画	ブランギン、スタンラン、ヴィヨン、ヴィレット、ビアズリー フリードランド
4) 現代版画	フックス、ヴァンダーリッヒ、ブラウアー、ミノー、クリーチ フォロン、クラーベ、ヴァザルリ、シシリア、呉一騏
5) 肉筆画	ブランギン、カリエール、ヴァンダーリッヒ、呉一騏

19世紀以降の版画作品を中心に蒐集しております。
特に重点的に蒐集している作品群を紹介します

親子のエッチング

シャルル・ジャック (50点所蔵)
フレデリック・ジャック(息子)(4点所蔵)

“バルビゾンの画家達の中でジャックは近年再評価されている”

シャルル・ジャック(父)は1813年パリ生まれ。挿絵画家、動物画家、版画家として活躍。特に銅版画では名刷師ドラートルを育てた。ミレーと共にバルビゾンに移住。共同のアトリエで家畜、納屋、田園風景などの作品を多く制作。1889年万博における絵画部門金賞、版画部門大賞受賞で頂点に達した。近年再評価され始め、レゾネ(版画、油彩、デッサン)出版が準備中とのこと。フレデリック・ジャック(息子)はミレーを‘おじさん’と慕い、彼の死後に版画集「ミレー黄金の書」を出版した。シャルルより柔らかいタッチが特徴である。



ジャック, フレデリック
「ミレー黄金の書より」ミレーのアトリエにて
1890年頃・銅版
14.0cm × 20.0cm



ジャック, シャール・エミール
レダと海老
1840~1848年・銅版
26.7cm × 18.8cm
摺:ドラートル, オーギュスト
パリ国立図書館所蔵



ジャック, シャール・エミール
農家の庭
1840~1848年・銅版
摺:ドラートル, オーギュスト
サンフランシスコ美術館所蔵



ジャック, シャール・エミール
放蕩息子
銅版 11.3cm × 18.0cm
摺:ドラートル, オーギュスト
サンフランシスコ美術館所蔵



ジャック, フレデリック
「ミレー黄金の書より」ミレーの肖像
1890年頃・銅版
18.4cm × 14.6cm

ンプ・モデルヌ

(45点所蔵)

“1890年代に色彩版画が大流行し、多くの版画集が出版された。
その代表作のひとつが『レストンプ・モデルヌ』である。”

レストンプ・オリジナル(1893-95年)の成功の後に1897~1899年にかけてデルティユによって出版されたリトグラフの名作集がレストンプ・モデルヌで、フランス及びヨーロッパの主要作家によるリトグラフ100点から成る。

ルーブル美術館、エルミタージュ美術館、国立西洋美術館、町田市立国際版画美術館等が所蔵する。



ペレリ=デフォンテーヌ,
アンリ・ジュール・フェルディナン
謎 23.5cm × 31.2cm



ジュールダン, フランス
白鳥 23.2cm × 33.8cm



レヴィ=デュルメ, ルシアン
往年の美女
29.7 × 22.6cm



アマン=ジャン
花の蔭で
35.0cm × 27.0cm



ロブ, マニユエル
秋のメヌエツト
32.9cm × 24.0cm



イベル, A
パントマイム
26.4cm × 35.0cm

その他19世紀の作品

“茜画廊はデルティユのカatalog・レゾネ等によって調査・確認をしながら作品蒐集をしています”



ドラクロワ・ウジェーヌ
オリフィア之歌
1834年 リトグラフ 25.8×20.6cm
デルティユⅢ-114
神奈川県立近代美術館所蔵



デュプレ, ジュール
ソム川の岸边
1836年 リトグラフ 13.5×21.2cm
国立パリ図書館所蔵



コロー・カミュー 夢見る人
1854年 ガラス版画 15×20cm
デルティユカatalog5-42
国立パリ図書館
静岡県立美術館等所蔵



ドービニー, フランソワ
「船旅」より船内のアトリエ
1861年 銅版画 10×13.4cm
デルティユ8-111 第2ステート
摺ドラートル



メリオン・シャルル
海軍省
1865年 銅版画 13.7×12cm
国立西洋美術館所蔵
町田市立国際版画美術館所蔵
摺ドラートル



ブラックモン
田計里と小鴨 1863年
銅版画 摺ドラートル 25.8×19.5cm
町田市立国際版画美術館所蔵



カリエール・ウジェーヌ
娘の肩を抱き寄せる母
1880年代
カンヴァスに油絵
45.5×37.5cm



ティツソ・ジェームス
モーニング
1886年 銅版画 49×26cm
町田市立国際版画美術館所蔵

スタンラン

“婦人や猫の絵で有名なスタンランであるが、
あまり知られていない戦争画に彼の本領が発揮されている”

スタンラン(1859年スイス～1923年パリ)

1880年代若く貧しい芸術家の卵リヴィエール、オリオール、グラッセ、ヴィレット、ロートレック、スタンラン達がモンマルトルの丘の周辺に定住し始めた。彼らの溜まり場となったカフェエやキャバレーのうち「シヤ・ノワール(黒猫)」は芸術家に発表の場を提供した。

1890年代にポスターや雑誌の色彩革命を支えた画家達である。

その頃スタンランは多色刷の一般に馴染みやすい婦人や猫などの石版画を制作するが1915年頃より戦争をテーマに愚かさ、悲惨さを描いた版画作品を発表する。戦争シリーズのエッチングとリトグラフは限定数が非常に少なく残存する作品は貴重である。

松方幸次郎が1918年～19年にスタンランをはじめネヴィンソン等の戦争版画を数十点収集している。

スタンラン戦争画 (5点所蔵)



「戦争」連行(仮)
1915年・リトグラフ
ed.20 41.2cm×54.5cm



「戦争」休息(仮)
1917年・銅版
ed. 15 49.2cm×59.5cm



「戦争中の素描」より
1916年・リトグラフ
ed. 100 57.6cm×37.0cm
町田市立国際版画美術館所蔵

ブラングイン(1)

“昨年の国立西洋美術館の『ブラングイン展』で再評価された画家”

1867年 ベルギー・ブルージュ生まれ。1877年よりロンドンに住みサウス・ケンジントンの美術館で学ぶ。1884年までW.モリスのもとでタピストリーの下絵を描く。1919年にロンドンの王立アカデミーの会員に推挙される。歴史的、寓話的、日常的主題を扱った版画、水彩、油彩画作品の他に壮大な壁画、工芸品、リトグラフなどを制作したが、もっとも優れた作品が多いのは版画である。〔エルミタージュ美術館名作展1999年より抜粋〕

労働者等を描いた銅版画作品。漆原由次郎を知り下絵を描き、彫・摺を漆原に依頼し木版画の名作を残した。作品はエルミタージュ美術館、ウィリアム・モリス・ギャラリー、スワンジ(ウェールズ)のギルトホール、オランジェ(フランス)の市立美術館等が所蔵している。ブルージュ(ベルギー)にフローニンゲ美術館(旧ブラングイン美術館)がある。日本では知る人が少ないがヨーロッパでは著名な版画家、画家である。

エッチング作品 (約20点所蔵)



アルカンタラの橋
1910年・ドライポイント+エッチング(ジンク板)
32.6cm×42.8cm
東京国立博物館所蔵



ロンドンブリッジNo.2
1903年・ドライポイント+エッチング(ジンク板)
42.6cm×56.0cm
大英博物館所蔵
ビクトリア&アルバート美術館所蔵
ブレメン美術館所蔵



ため息橋
1910年・ドライポイント+エッチング(ジンク板)
70.0cm×44.8cm
オーストリア皇帝より名誉賞(グランドメダル)受賞

ブラングイン(2)

漆原由次郎による木版画(約60点所蔵)



詩画集「ブルージュ」(12点)より
ブルージュ運河の船
1919年・木版画(彫摺:漆原由次郎)
ed.50 38×49.5cm 大英博物館所蔵



ブランヴァイン・スケッチ集(20点)より
1940年・木版画(彫摺:漆原由次郎)
ed.50 33×26.0cm 大英博物館所蔵

リトグラフ(2点所蔵)



五人の男
1914年～1916年・リトグラフ
26.3×35.2cm

注) 昨年の国立西洋美術館「ブラングイン展」へ上2品を含め舊画廊から14点貸し出した。

水彩画(3点所蔵)



詩画集「10の木版」 フラマンの田舎
1924年・木版画(彫摺:漆原由次郎)
ed.250 14.5×21.5cm
大英博物館所蔵 国立西洋美術館所蔵



ヴェニス金色の朝
1919年・木版画(彫摺:漆原由次郎)
ed. 50 22×34.2cm
東京国立近代美術館所蔵



船上にて
1906年・水彩(ガッシュ)
35.0cm×48.0cm サインあり

9世紀 挿絵・ポスター

商業用の作品も蒐集しております

ドーミエの風刺画（20数点所蔵）

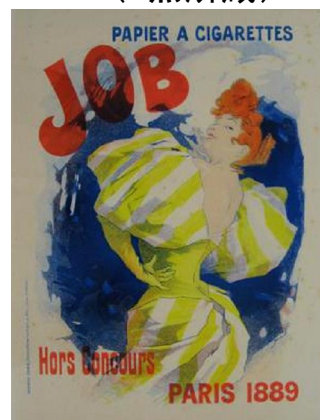


狩りの素描 1-11
1853年 シャリバリ誌
リトグラフ 25.5×21.2cm
デルティユ x x i v 2459



入り組んだ悲喜劇の主演俳優
1835年3月29日 シャリバリ誌
リトグラフ 30×23cm
デルティユ x x 235

シェレのポスター
（2点所蔵）



手巻き煙草の紙「ジョブ」
（室内用ポスター） 1889年
リトグラフ 29cm×22cm

ドフルの口絵



「フィガロ・イリュストレ」誌より 訪問
1900年 28×20.7cm
リトグラフ・オフセット併用

ロートレック歌曲集



デジレ・ディオー歌曲集より「アデュー」
1894年（第1ステート）
リトグラフ 27cm×20cm
デルティユ10-AD158

スタンランの口絵
（約20点所蔵）



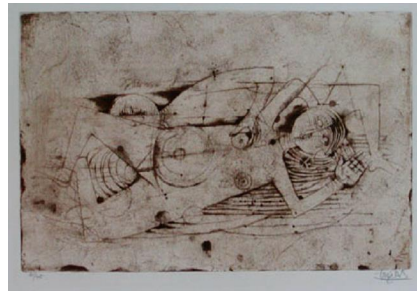
「ジル・プラス」誌口絵 兄弟
1895年7月・リトグラフ 34.5×20cm

20世紀の作品

“海外作品は近代から現代まで欧州作家の
版画作品を中心に蒐集しています“

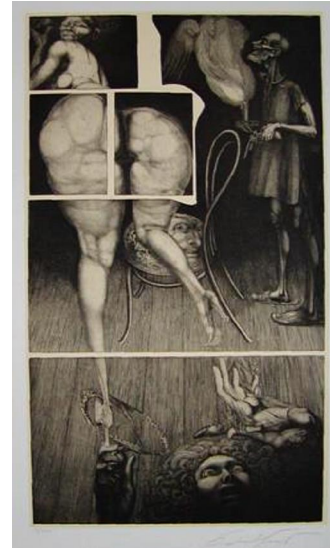


ヴィレット・アドルフ
御馳走 1916年
リトグラフ 41 × 30.2cm



フリードランデル・ジョニー
裸婦 1950年頃
銅版画 19.7 × 29.7cm

フックス(10数点所蔵)



フックス・エルンスト
ヴィーナスとケンタウロス
1960年代 銅版画 65 × 37.4cm
池田二十世紀美術館所蔵



ヴィヨン・ジャック コンポジション
1940年頃 銅版画 49.5 × 34cm



ニコルソン・ベン
建築シリーズより
1967年 銅版画 20.2cm × 16cm



ブラウアー・エーリッヒ
ソロモン王シリーズ
銅版画 31.6 × 39.8cm
池田二十世紀美術館所蔵

ヴァンダーリッヒ
(約30点所蔵)



ヴァンダリッヒ・ポール 赤と青
リトグラフ 1969年 31.6 × 39.8cm



ヴァンダリッヒ・ポール
包み隠したダニエラ
ガッシュ+色鉛筆 1972年頃
84 × 66cm

最後に

《版画について》

- ・海外の美術館が所蔵する日本美術品は肉筆画は鎌倉・安土桃山・江戸・明治の物が数多い反面、日本の美術館が多く所蔵する大正以降の肉筆画は極めて少ない。それに対し版画(含浮世絵)は現代物まで数多く海外の美術館に所蔵され高く評価されている。
- ・そして日本の美術館に比べ海外の美術館は版画の所蔵数が非常に多い。これまで日本は版画や浮世絵の評価が低すぎたと言える。
- ・しかし日本でも最近では東京国立博物館で初の浮世絵展「写楽展」開催、そして国立西洋美術館で開催される「レンブラント展」は版画が多くをしめるなど、国内の大きな展覧会で版画の比重が大きくなってきている。
- ・また国際浮世絵学会は以前は多くが業者でしたが、最近は大学の研究者等がたくさん入会するようになった。また昔は江戸物に関する研究報告しかなかったのが最近では今まで見向きもされなかった明治以降の物を扱った論文も加わり活気が出てきている。

私どもは日本の美術界のレベルアップのためには美術館が今以上に版画の展覧会や収蔵品を充実させることが重要と考えております。

美術館における展覧会への貸出・作品購入等の際し、我々の所蔵作品が役に立ちます際にはご要望下さい。ご相談に応じます。